



白門40年会会報の発刊に寄せて

会 長 新 井 嘉 昭

白門40年会は、いよいよ活動を開始しました。この「白門40年会会報」の発行です。会員の皆様の意見交換の場として、又会の活動状況や予定行事等を皆様にお伝えする情報源としての役割を果たすものと、大いにその成果を期待するものです。

さて白門40年会は、去る5月11日、420余名の会員の熱い期待のうちに、230名の出席のもと、創立総会と懇親会を開催し、産声をあげました。同時に白門40年会は、中央大学学員会白門40年会支部として発足したことになります。

白門40年会の発足経過の詳細については、別稿に譲りますが、準備委員を中心として、ゼミ・クラブ・研究会等の仲間のリストを持ち寄り、千数百名の方々に入会案内を送付しただけで、420名を超える入会者を得ました。これは極めて能率的で、しかも軽量節減がはかれた勧誘方法でした。と同時に準備委員のリストづくりを通じて、準備委員が心をひとつにすることのできた大きな原因となりました。

学員会の支部活動に携わってみますと、母校中央大学のOBの方々は、ホームカミングデーの開催に協力したり、いろいろな分野で、母校とのかかわりを持っていることが分かりました。11月2日には、年次支部が中心となり、「留学生を励ます会」を催し、各国の留学生約300名を迎えて、激励しました。むろん白門40年会からも有志が参加して、お手伝いをしています。

このように皆様が一致協力して、新しい「器」はできました。これからは、「器」の中にどのようなものを入れるかです。大きな夢を入れれば、大きな器になるでしょう。どのような器になるか、大いに期待したいものです。

目下、企画・広報委員会を中心に、様々な行事等を企画検討していますが、やはり会員一人ひとりの、仲間を愛し、会を愛する気持ちが絶対不可欠です。会員の皆様の更なるご協力をお願いする次第です。